



1 「三角ようじ」の製造 2 商品を手にする稲葉信社長 3 「ドクターピック」(左)と「三角ようじ」 4 工場の天井に今も残る滑車 5 つまようじ資料室で古い機械を説明する稲葉修会長

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

3

創

「三角ようじ」を普及させ 地場産業も復権させたい 株式会社 広栄社

「日本で一般的な丸いようじは本来、果物などを突き刺す料理用の道具。欧米では歯をケアするようじは三角や平らなタイプが多く、使い分けられています。」
北欧の企業からの依頼で、歯の隙間にびつたり入るように断面を二等辺三角形にした「三角ようじ」を昭和38年から製造し続けてきた広栄社。稲葉修会長は「日本人の歯の健康に対する意識を変えることにつながれば」と、開発から半世紀が経つ今も、国内への普及に熱い思いを持ち続けています。
同社はつまようじ専門メーカーとして、稲葉会長の祖父が大正6



5

株式会社 広栄社

予防歯科運動の推進でオーラルケアに貢献。生産・加工を行う機械・設備は自社製で賄う。近年は産学連携による製品開発も。

■つまようじ資料室を併設

▶毎週土曜日開室(祝休日などを除く) ▶時間は午前10時~正午と午後1時~4時(入室は3時まで) ▶詳しくは問い合わせを上原町 885 ☎ 52-2901 <http://cleardent.co.jp/>

年に創業。大正末期に米国から製造機械を導入し、日本で初めてつまようじの機械生産に成功してからは、白樺材を使った「平ようじ」や「三角ようじ」などを生産し、欧米向けの輸成型企業として成長してきました。しかし、変動相場制に移行した昭和48年以降、円高が進行し、生産量の95%を輸出に依存していた同社の売り上げは激減。「丸ようじ」が主流の国内市場での挑戦を余儀なくされました。
国内で苦戦が続く中、つまようじでも独創性のあるもの、さらにはそれ以外の製品の開発に力を入れることに。その結果、平成15年には、持つ部分が丸く、先端だけが二等辺三角形の世界初の歯間ようじ「ドクターピック」を龍

谷大学との連携で商品化。他にも、歯の着色汚れを落とす「ピーリングスポンジ」や、舌の汚れを取り除く「タンクリーナー」、奥歯の裏側を磨く「バックフィット」などの商品を開発・展開し、オーラルケア用品の専門メーカーへと転身を果たしました。
現在は併設するつまようじ資料室の管理人も務める稲葉会長。多彩な製品を手掛けるようになって、 「三角ようじ」へのこだわりと、地場産業を復権させたいという思いが揺らぐことはありません。



▲(左から)ピーリングスポンジ、タンクリーナー、バックフィット